

学習指導要領
改訂に対応

集団宿泊活動 サポートガイド

改訂版

教科等の学習に関連付けることで高まる

集団宿泊活動の 教育効果

「自主的・実践的な集団活動」を通じた「学び合う学級」づくり
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの
授業改善を通じた「資質・能力の育成」

総合

学級活動

道徳

体育

家庭

理科

国語

集団宿泊活動



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

学習指導要領改訂の方向性と 集団宿泊活動の意義

文部科学省は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中央教育審議会答申、平成 28 年 12 月 21 日）（以下、「答申」）を受け、小中学校の次期「学習指導要領」を告示しました。（平成 29 年 3 月 31 日）

答申では「学習指導要領改訂の方向性」を下図のように提示しています。そこで、この視点から集団宿泊活動の意義を示します。

資質・能力の三つの柱

- ▶ 生きて働く知識及び技能の習得
- ▶ 未知の状況にも対応できる **思考力、判断力、表現力等**の育成
- ▶ 学びを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力、人間性等**の涵養

何ができるようになるか

新しい時代に必要となる
資質・能力の育成と、学習
評価の充実

「社会に開かれた 教育課程」の実現

各学校における
「カリキュラム・
マネジメント」
の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる
資質・能力を踏まえた教科・
科目等の新設や目標・
内容の見直し

どのように学ぶか

「主体的・対話的で深い
学び」（アクティブ・ラー
ニング）の視点から学習
過程の改善

1 自然体験や生活体験が「主体的な学び」の 基盤となる「自己肯定感」を高める

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み自己の学習活動を振り返って次につなげる学び「答申より」

このような「主体的な学び」を進めていく上では、「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」といった自己肯定感を高めることも大切です。

国立青少年教育振興機構（以下、「機構」という。）が実施した調査において、「自然体験」や「生活体験」が多い子供ほど、「自己肯定感」が高い傾向にあることが分かりました。

自然の中で生活をともにする集団宿泊活動では、自己肯定感を高める自然体験活動や生活体験を行うことができ「主体的な学び」の基盤を育成します。

自然体験と自己肯定感の関係



「青少年の体験活動等に関する実態調査」
平成 28 年 5 月 国立青少年教育振興機構

2 集団宿泊活動が「よりよい人間関係を形成」し、「対話的な学び」ができる学級づくりにつながる

子供同士の協働、教職員や地域のひととの対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び「答申より」

「対話的な学び」の視点からは、安心して自分の考えを伝えることができる学級であることも重要です。

文部科学省が実施した調査によると、集団宿泊活動を通して、子供同士の人間関係・コミュニケーション力が高まることが分かります。

学級の中で活動するとき児童・生徒の意欲の前には、2つの壁が立ちはだかります。1つは、「無理・できない」という「自己概念」の壁、1つは、「間違えたら恥ずかしい」という「他者との関係」の壁です。この壁を仲間の支えによって乗り越えることや、嘲笑や冷やかしの壁を排除

意欲に立ちはだかる2つの「壁」



集団宿泊活動 所属感、連帯感

学び合う学級

学力の向上 いじめ防止 支え合う、高め合う 学び合う

することが学級づくりに必要です。

集団宿泊活動を行うことによって、「美しい自然や雄大な自然に触れる」ことや「仲間と困難を乗り越えてやりとげる達成感を得る」ことなど、感動体験を共有することで、学級への「所属感」や「連帯感」が深まり、いじめの未然防止につながったり、「支え合う」「高め合う」「学び合う」学級になったりしていくと言えるでしょう。

小学校の集団宿泊活動による教育効果

◎児童が互いに励まし合うなど、連帯感や仲間意識が向上した

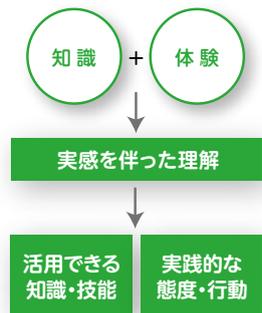


農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について(報告)
平成21年12月 文部科学省

3 実感を伴った理解は「深い学び」にもつながる

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び「答申より」

「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」では、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある児童・生徒ほど、平均正答率が高い傾向にある」と報告されています。自然の中で遊んだり、集団宿泊活動で観察・実験を行ったことにより好奇心が育ち、理科を学ぶ意欲が高まることが期待されます。



答申は、左図のように資質・能力の三つの柱を提示しています。

こうした資質・能力を育むためには、知識と体験を結びつけることが重要です。個別的な知識に体験が伴うことで、その意味を実感し、深い理解につながります。また、「集団は協力することが必要」といった概念的な知識は、体験を通して獲得していくものと言えるでしょう。

集団宿泊活動における自然の中での活動や他者との共同生活は、思い通りにならないことに直面します。こうした状況を乗り越えるために、既に学んだ知識及び技能、身に付けた思考力、判断力、表現力等を生かすことで、目指す資質・能力が育成されると言えるでしょう。

小学校の集団宿泊活動と教科の平均正答率との関係

◎自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか？

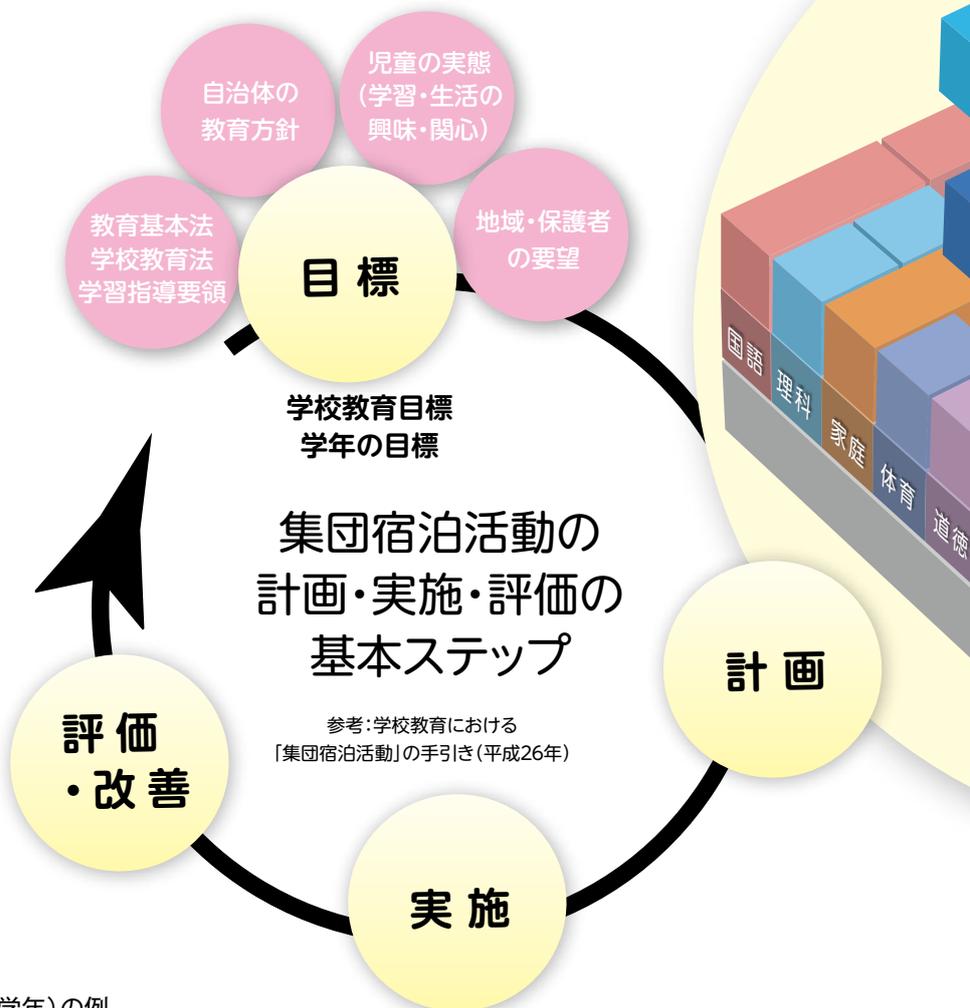


平成27年度全国学力・学習状況調査
平成27年8月 文部科学省・国立教育政策研究所

集団宿泊活動を効果的に実施するための「カリキュラム・マネジメント」

新 学習指導要領では、各教科等で育成をめざす資質・能力を明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を、教科等横断的な視点で組み立てるといった「カリキュラム・マネジメント」が重要であるとしています。

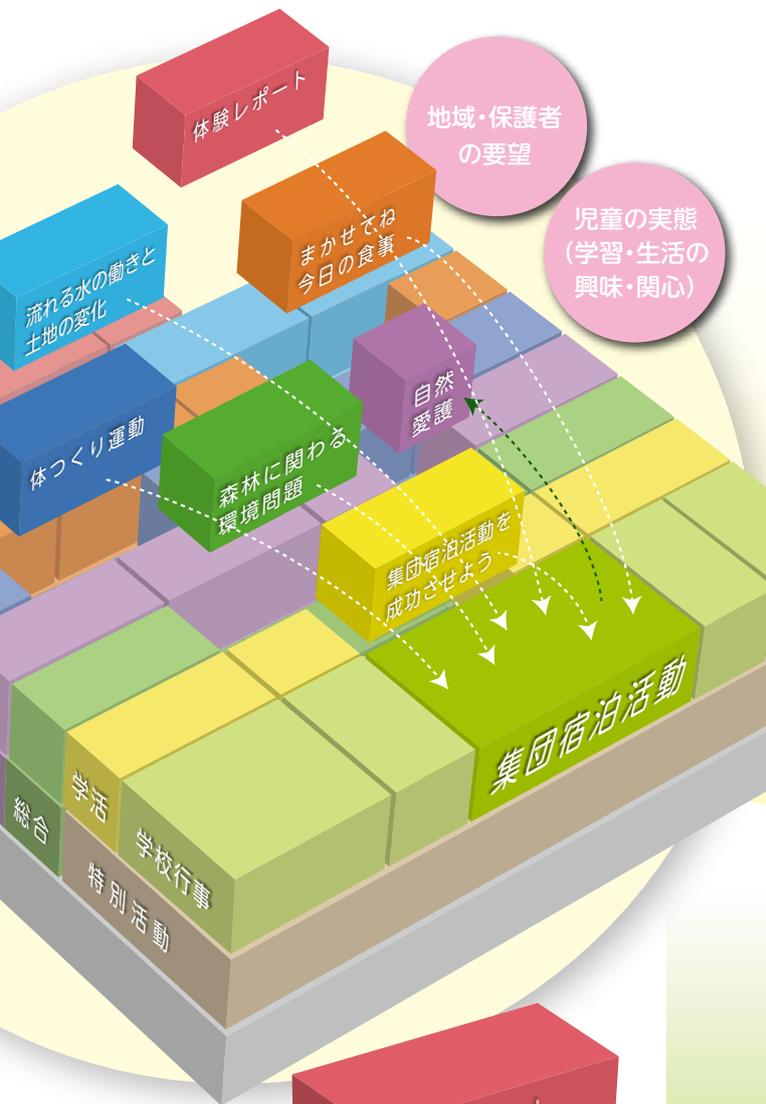
集団宿泊活動は、「特別活動」における「学校行事」の中の「遠足・集団宿泊的行事」（小学校）に位置付けられますが、いろいろな活動の一部について、その教育活動の位置付けを見直したり、学校での事前事後指導を適切に位置付けることなどにより、理科や体育、道徳科等の教科、総合的な学習の時間等との関連を図ることによって、教育効果を一層高めることができます。



集団宿泊活動の実施計画における日程(第5学年)の例

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目			学校 出発		移動		開校 式	昼食	荷物 搬入	活動プログラム／野外炊事 教科等【時数】／家庭【2】 単元名等／まかせてね 今日の食事				活動 準備	天体観察 特活【2】 6年理科【月と太陽】 の事前学習	入浴	消灯
2日目	起床	つどい	朝食	活動 準備	源流探険 理科【2】 流れる水の働きと 土地の変化		昼食	森の手入れ体験 総合【2】 森林に関わる環境問題			つどい	夕食	活動 準備	炭焼き体験 総合【2】 森林に関わる 環境問題	入浴	消灯	
3日目	起床	つどい	朝食	活動 準備	登山 体育【2】 体づくり運動				キャンプファイヤー 計画 特活【2】		つどい	夕食	活動 準備	キャンプ ファイヤー 特活【2】	入浴	消灯	
4日目	起床	つどい	朝食	活動 準備	活動のまとめ 国語【2】 体験レポート		昼食	荷物 整理	閉校 式	移動			学校 到着				

※教科等の時数については、活動プログラムの時間の中で、各教科等の目標や内容を踏まえ、実施計画において体験活動のねらいを明確にし、それぞれの年間指導計画や単元や題材など内容のまとまりごとの指導計画に適切に位置付けてカウントしています。



集団宿泊活動を年間指導計画に適切に位置付けるためのステップ

ステップ 1

集団宿泊活動で行う各活動を教科等に関連付けて年間指導計画を作成

集団宿泊活動で育てる資質・能力を教科等横断的な視点で設定し、事前学習及び事後学習を含め年間指導計画を作成する。見方を変えれば、各教科等の年間指導計画を作成する際、集団宿泊活動の中で行う方が、教育効果が上がる学習内容を検討し、各教科等の年間指導計画に位置付け、教育課程全体と往還させ計画に組み込むということである。

ステップ 2

集団宿泊活動実施計画の作成

集団宿泊活動で実施する各活動と、各教科等との関連を図り年間指導計画に位置付けた学習活動を効果的に配列し、集団宿泊活動の実施計画を作成する。その際、集団宿泊活動を実施する国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）が整備しているプログラムや指導體制等を確認し、活用することが重要である。

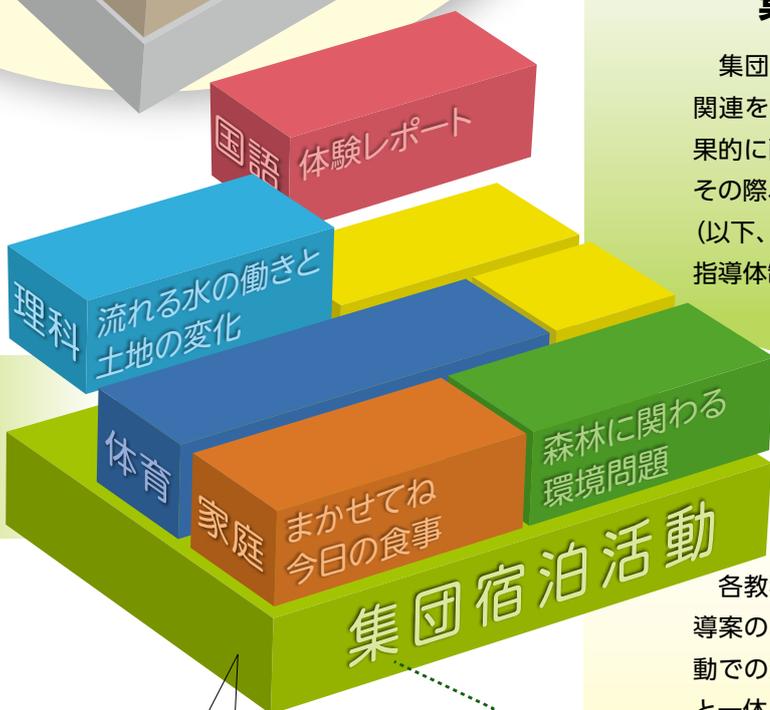
ステップ 3

各教科等の実施案の作成

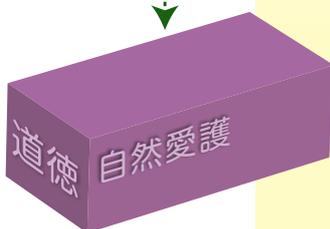
各教科等に関連付けた各活動の実施案、いわば指導案のようなものを作成する。その際、集団宿泊活動での活動だけでなく、事前・事後の学校での授業と一体となった計画を作成することが効果的である。

例 「特別の教科 道徳」

内容D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」は、小学校第5学年及び第6学年で、「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること」を挙げています。集団宿泊活動で自然について感じたり、考えたりしたことを学校の道徳の時間に題材として取り扱うことが効果的です。



この実施計画例では4日間の日程で行われる集団宿泊活動のうち教科等の授業時数は、**家庭科[2時間]+理科[2時間]+総合[4時間]+体育[2時間]+特別活動[6時間]+国語[2時間]**の合計**18時間**です。



「主体的・対話的で深い学び」の視点 からの授業改善の展開例

集 団宿泊活動は、各教科等で身に付けた「資質・能力」を、総合的に活用して実践する場です。教育環境の整った施設であれば効果の上がる学習を展開することが可能です。特別活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理した「資質・能力」と共に、教科等で身に付ける「資質・能力」をさらに高めることができます。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

次期小学校学習指導要領の「総則」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進に当たっての配慮事項を以下のように示しています。

『～略～児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方

を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。』（小学校学習指導要領 第1章総則 第3教育課程の実施と学習評価 1主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（1）より抜粋 平成29年3月文部科学省）

また、答申では、各教科等それぞれの「主体的・対話的で深い学び」の視点を示されました。

以下に示す展開例は、それぞれの活動プログラムで「育成する資質・能力」を示し、答申で示された各教科等の「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程について、施設で行われている活動の流れと共に紹介します。



何を学ぶか



どのように学ぶか

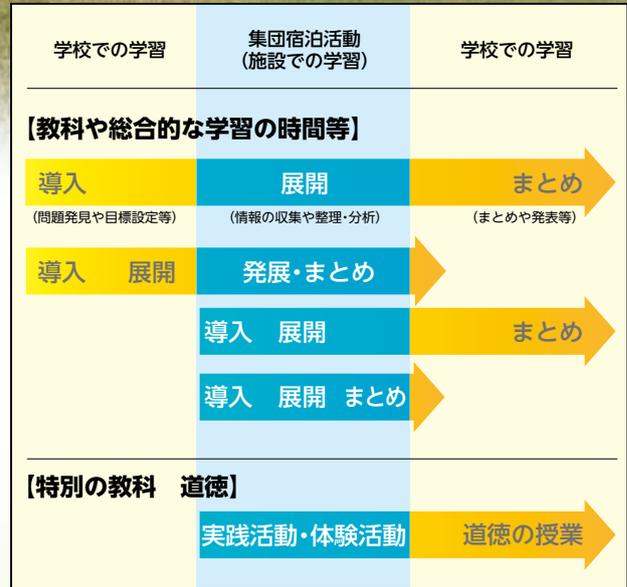


何ができるようになるか

学習の展開パターン

ステップ3で示した集団宿泊活動と学校での学習（事前と事後）を組み合わせたパターンは右図のように整理できます。例えば、事前の授業で問題意識を持たせることで、集団宿泊活動での追究活動が主体的になったり、事後の授業を、学習した成果を他学年や保護者に発表する場にするすることで表現力を高めたり、自信を付けたりすることができます。

また、学校の学習で習得したことを集団宿泊活動で活用したり、集団宿泊活動で実践したことを学校の学習に繋げたりすることで教育効果が高まります。さらに集団宿泊活動で体験したことは、学習する時期や学年が違ってても生かすことができます。



活動プログラム / 源流探検

▶ 5年 理科「流れる水の働きと土地の変化」

単元の目標

流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察や実験などに関する技能を身に付けるとともに、流水実験や源流での観察の予測や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

▶ 学習過程と活動の流れ

問題の把握

学校での学習
【5時間】

- ・ 豪雨災害の時の土地の様子から「流れる水の働き」について話し合う。
- ・ 流れる水が土地を侵食したり、土砂を運搬したり堆積したりすることを、流水実験を通して調べる。

問題の追究

施設での学習
【2時間】

- ・ 源流探検を通して、流水実験で調べたことが大自然の中で実際に起こっている様子を観察する。
- ・ 自然の力の大きさを実感できるようなどころを見付ける。

問題の解決

学校での学習
【2時間】

- ・ 川の上流と下流の様子について観察し、その違いをまとめる。
- ・ 土地は長い時間を経て変化していることや自然の力の大きさなどについて話し合う。

▶ 育成する資質・能力

知識及び技能

流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。

思考力、判断力、表現力等

流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予測や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

学びに向かう力、人間性等

流れる水の働きについて追究する中で、主体的に問題を解決しようとする事。



何を学ぶか

どのように学ぶか

何を学ぶか

教科等の内容と施設の活動プログラム

右の表は、教科等の内容と、関連付けて実施することが考えられる施設の活動プログラムを対応させたものです。

しかしながら、ただ単に「野外炊事」を「家庭」に関連付けるのではなく、「野外炊事」を通して、「家庭」で身に付ける資質・能力を明確にするとともに、ねらいとする資質・能力の育成をめざして「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の創意工夫を考えることも大切です。

下に、指導例を示しています。各施設でモデルプログラムを作成していますので、学校の実態に応じて調整活用してください。

教科等	学年	教科等の内容	関連付けて実施することが考えられる施設の活動プログラム例
国語	5・6年	書くこと（紀行文、短歌、俳句、説明文）	野外活動
社会	5年	農業や水産業における食料生産 自然環境（森林）と国民生活との関連	農業体験、漁業体験 林業体験、環境学習
理科	4年 5年 5年 6年 6年	月と星 流れる水の働きと土地の変化 天気の変化 土地のつくりと変化 月と太陽	天体観察 自然観察、ハイキング 自然観察、野外活動 ジオパークの見学、登山 天体観察
音楽	5・6年	歌唱活動	キャンプファイヤー
図工	5・6年	造形遊び、絵や立体、工作	クラフト
家庭	5・6年	栄養を考えた食事	野外炊事
体育	5・6年	体づくり運動 表現運動（フォークダンス）	登山、ハイキング キャンプファイヤー
総合	5・6年	各学校で定める （例）森林に関わる環境問題	環境学習、炭焼き体験
道徳	5・6年	友情、信頼 よりよい学校生活、集団生活の充実 自然愛護	野外活動 集団宿泊活動全体 ハイキング、登山
特活	5・6年	自然の中での集団宿泊活動 学校行事の「遠足・集団宿泊的行事」	キャンプファイヤー 集団宿泊活動全体

活動プログラム / 森林探検、炭焼き体験

▶ 5年 総合的な学習の時間 「森林に関わる環境(再生可能エネルギー)問題」

単元の目標 エネルギー問題を荒廃している森林の学習から考え、人と自然の共存について新たな課題を見つけ、身近な問題を解決できるようにする。

▶ 学習過程と活動の流れ



学校での学習
【2時間】

課題の設定

- ・森林の良さや問題点を探し学習課題を決定する。探検した森林の問題状況の中から課題を発見する。

情報の収集1

- ・森林の手入れ体験を行う。森林(里山)と人との関わりについて話を聞き、保全活動の体験をする。

施設での学習
【4時間】

情報の収集2

- ・炭焼き体験をする。森林の保全活動の一つとして炭焼きの意味や苦労話を聞いて問題点を知る。



整理・分析

- ・森林保全活動と炭焼き体験について情報を整理して分析する。保全する必要性や再生燃料について考える。

学校での学習
【2時間】

まとめ・表現

- ・再生燃料としての炭やまきの役割を知る。自然のサイクルや人々の知恵を知る。



▶ 育成する資質・能力

知識及び技能

里山の保全活動や炭焼き体験を通して、再生可能エネルギーである炭や里山の役割について知り、森林の荒廃問題や、化石エネルギー問題の解決に向けて人間社会ができることを理解すること

思考力、判断力、表現力等

森林の荒廃問題や、化石エネルギー問題について、自らの経験と話し合いをもとに、課題設定を行い、森林整備や再生可能エネルギーである炭を作る体験活動を通して、課題の整理分析を行うとともに、学習したことをまとめ、発表すること

学びに向かう力、人間性等

自分の経験を生かして環境問題について考え、仲間と協力して体験したことを関係づけながら環境問題について考え、自分たちでできる身近な環境を守る活動を計画すること

何を学びか

どのように学びか

何ができるようになるか



活動プログラム / 野外炊事

▶ 5年 家庭「まかせてね 今日の食事」

題材の目標

栄養やご飯とみそ汁の学習を生かして課題をもち、カレーづくりについて調理計画を立て、調理の仕方を工夫することができるようにする。

▶ 学習過程と活動の流れ

生活の課題発見

- ① 満点カレーを考えよう
- ・ 栄養のバランスを考え、材料を考える。
 - ・ 材料を3つのグループに分類し、栄養のバランスを考える。

解決方法の検討と計画

- ② カレー作りの計画を立てよう
- ・ 衛生、事故防止、環境について話し合う。
 - ・ 役割分担を決める。

学校での学習
【2時間】

実践活動

- ③ 栄養を考えた満点カレーを作る
- ・ 担当する分担を確認する。
 - ・ 包丁等を安全に使い、衛生面や環境面に配慮して調理する。

評価・改善

- ④ カレー作りを振り返る
- ・ 各班で試食する。
 - ・ 調理や生ごみなど後片付けについてねらいが達成できたかを振り返る。

施設での学習
【2時間】

家庭・地域での実践

- ⑤ 家族にごちそうしよう
- ・ 喜んでもらえる食事計画を立てる。
 - ・ 栄養を考えた満点カレーやオリジナルみそ汁などを作る計画を立てる。
 - ・ 生ごみを減らすにはどうしたらよいか考える。

学校での学習
【2時間】

▶ 育成する資質・能力

知識及び技能

調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けること

思考力、判断力、表現力等

おいしく食べるために、調理計画や調理の仕方を考え、工夫することができるようにすること

学びに向かう力、人間性等

食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うこと



何を学ぶか



どのように学ぶか

何ができるようになるか

国立青少年教育施設の支援体制

～ 学校の集団宿泊活動を施設職員がサポートします ～

学校の取組

集団宿泊活動
実施決定

計画立案

事前打合せ

実施

評価

施設のサポート

サポート① ご利用に当たっての様々な情報提供

利用できる日、活動に関する指導資料・教材や外部研修指導員の紹介、医療機関など様々な情報を提供します。施設のホームページも充実していますので、ご活用ください。

サポート② 計画立案に対する支援

機構では、集団宿泊活動の計画立案の参考となる資料を作成しています。利用する施設に問い合わせで入手するか、機構のホームページからダウンロードしてください。また、各施設でも参考資料を作成しています。電話による相談も受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

サポート③ 具体的な活動計画作成の支援

施設に来所していただき、事前打合せを行うことができます。教員経験が豊富な施設職員が在籍していますので、次のような相談もできます。

○利用相談

研修室や宿泊室、お風呂の使い方、食堂のシステムなど施設の使い方や、清掃のやり方などを、施設を見学していただきながら説明することができます。

○プログラム相談

具体的な集団宿泊活動実施計画を施設職員と相談することができます。

・利用の目的や教育課程に合ったプログラムの相談

施設利用の目的に合った活動プログラムの紹介や、各教科等との関連を図る活動プログラム等について相談し、具体的な集団宿泊活動計画案を作成するための相談をします。

○下見

活動コースの実地踏査の支援、効果的な展開法や指導法、安全管理などについても助言を行います。

サポート④ 人的な支援 ～外部研修指導員等の紹介～

施設では、特定の活動について、専門的な知識や技能を有する地域の方を外部研修指導員として登録しています。指導は有料になりますが、ご活用ください。

サポート⑤ 職員による指導や緊急時の対応

○安全点検と施設整備

各施設では毎月実施する定期点検や、日々行う日常の点検により、安全・清潔・快適な生活・活動環境を整備しています。

○職員や外部研修指導員等による指導

児童・生徒に、活動の仕方や安全指導、生活指導などを行ったり、引率の先生方に支援を行ったりしています。

○緊急時の対応

医療機関との連携による非常時の対応も行っています。

サポート⑥ 活動の評価に対する支援

○施設の職員や外部研修指導員等からの情報提供

子供たちの活動や生活における成長の様子等の情報提供を行うことができます。

○評価資料の提供

機構等で開発した活動後の子供たちの変容を調べるアンケート用紙を提供するなど、活動評価に関する支援を行うことができます。

集団宿泊活動の計画 Q&A

Q1

現行の学習指導要領では、「体験活動の充実」が重要であるとし、「小学校においては自然の中での集団宿泊活動」、「中学校においては勤労観・職業観をはぐくむ職場体験活動」を重点的に推進すること、また、一定期間（例えば、1週間程度）にわたって行うことにより、高い教育効果が期待されるとしています。

今般の答申では、集団宿泊活動について、どのようなことが示されていますか。

A 平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会答申では、「特別活動」の「教育内容の改善・充実」で、「自然の中で生活を共にする集団宿泊活動については、引き続き重要である」とし、期間については、「『イングリッシュ・キャンプ』や『通学合宿』などを行ったりするなどの工夫を行い、より長期間の活動とすることも考えられる」としています。

教科等と関連付ける際には、集団宿泊活動や当該教科等で育成をめざす資質・能力を明確にして実施することが必要と言えます。また、小学校のみならず、中学校や高等学校等においても、発達の段階に応じた集団宿泊活動を実施することも重要ではないでしょうか。

Q2

集団宿泊活動で行う活動を、教科等に関連付けることはできますか。

A 文部科学省のホームページには、「活動全体を特別活動の学校行事として位置付けることができるのは当然ですが、例えば、農作業体験（社会）、自然観察（理科）、野外炊事（家庭）など、教科の内容にかかわる活動が含まれる場合、当該活動について教科の学習として位置付けることは可能です」と掲載されています（学習指導要領改訂の基本的な考え方に関する Q & A）。

学校の授業で行うよりも、自然の中での集団宿泊活動で行う方が、効果が上がる教育活動を取り入れた日程（プログラム）にすることが望まれます。そのためには、年間の教育計画の中で、各教科等との関連を検討するといったカリキュラム・マネジメントが必要になります。

Q3

集団宿泊活動を計画する上で、参考になる資料はありますか。

A 機構では、以下の資料を作成しています。これらは、ホームページに掲載されているので、ダウンロードすることができます。

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/

青少年機構

検索

『学校教育における「長期集団宿泊活動」の手引き～体験を通して学ぶ教科学習のすすめ～』（平成 20 年 6 月）



- 「理論編」：学校教育における体験活動と長期集団宿泊活動の意義 等
- 「実践編」：集団宿泊活動に各教科を取り入れた展開例 長期集団宿泊活動の企画と運営 等

『小学校自然体験活動モデルプログラム開発』報告書（平成 22 年）



- 長期集団宿泊活動の意義
- 小学校における教科等に対応した長期集団宿泊活動のモデルプログラム
- モデルプログラムの教育効果 等

『学校教育における「集団宿泊活動」の手引き～各教科等の関連を図る教育課程編成資料～』（平成 26 年 3 月）



- 学校教育における集団宿泊活動の意義
- 集団宿泊活動で行われる各活動を教科等に位置付けた教育課程の編成と展開例（指導案形式で提示） 等

豊かな自然の中にある 国立青少年「交流の家・自然の家」

感動体験を日常に活かす

「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、北海道から沖縄まで全国28施設において、学校や青少年たちに立地条件を活かした特色ある感動体験を提供するとともに、青少年教育指導者の研修、青少年教育に関する調査研究、青少年団体等への助成にも取り組んでいます。



国立青少年教育施設で集団宿泊してみませんか？

国立青少年交流の家

国立青少年自然の家

- ◆学校利用の宿泊料金は無料
 (シーツ洗濯料300円+食事代3食1,670円程度)
- ◆各施設・地域の特色を生かした活動プログラムを提供
- ◆利用相談におけるカリキュラム・マネジメントは、専門職にお任せください
- ◆広大な敷地で大人数受入可能。充実した研修設備や活動環境が整っています

国立オリンピック記念青少年総合センター

- ◆低廉な利用料金(学校団体宿泊料1人1泊1,830円～)
- ◆東京都心へのアクセス良好
- ◆修学旅行などでご利用いただけます

☎ 03-6407-7722 (教育事業部企画課)

✉ honbu-sien@niye.go.jp

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

<https://www.niye.go.jp>

本パンフレットは、国立青少年教育振興機構のホームページからダウンロードできます。

青少年機構

検索

「体験の風をおこそう」運動推進中!

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。国立青少年教育振興機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を青少年団体と連携して進めています。

「体験の風をおこそう」ホームページ <http://taikennokaze.jp/>



「早寝早起き朝ごはん」国民運動推進中!

子供たちが健やかに成長していくためには、「早寝早起き」をすることや「朝ごはん」を食べることなどの基本的な生活習慣を身につけることが重要です。国立青少年教育振興機構では「早寝早起き朝ごはん」国民運動を積極的に推進しています。

「早寝早起き朝ごはん」ホームページ
<http://www.hayanehayaoki.jp>

